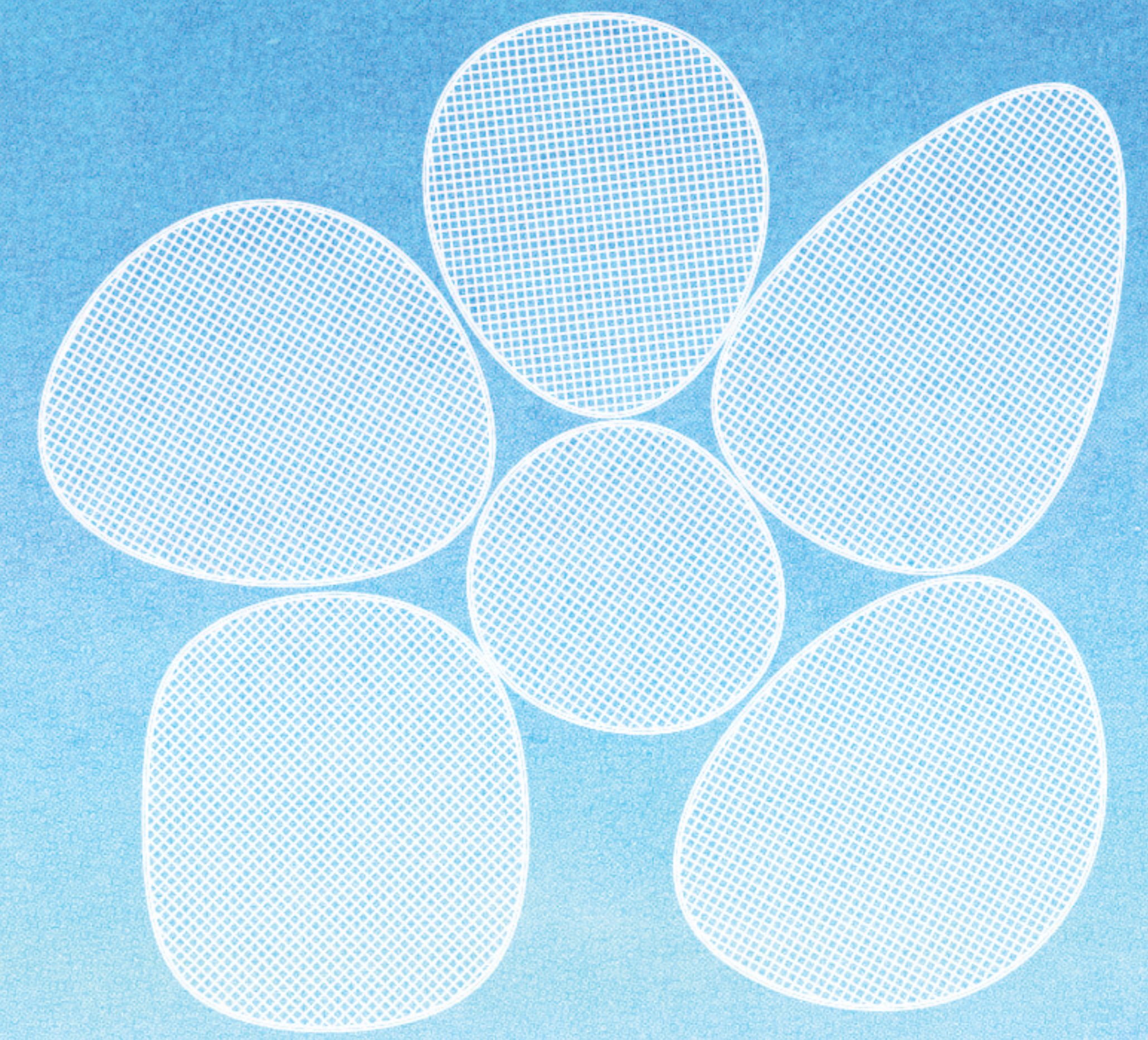


ガラスの浮島

ガラスブロックの特性—中空・細積・透明といった要素によって生まれるフォルムや集合によって「かわいさ」を生み出せないかと考えた。そこで私の提案は「ガラスの浮島」である。ひとつひとつの島は不定形な6~9mほどの大きさを持ち、お皿のように湾曲している。水面に落ちた花びらが漂う様をイメージした (fig.01)。実際に花弁を断面を参照し (fig.02)、その断面に沿うようにしてガラスブロックを組積させてゆく。例えばカタラン・ヴォールト (fig.03) のような有機的な形状を生み出す工法を用いて。またガラスブロックは元来中空になっているので、内部にヘリウムガスを注入し浮力を与える。人が乗ればまるで一寸法師のようなスケールになり、下をのぞけば海中の光の揺らめきを覗くことができる。互いの島はゆらゆらと漂い互いに身を寄せ合ったり、あるいは船に引っ張られて次なる場所へ旅をする。ガラスブロックならではの性質と構法を突き詰めた先に生まれる「かわいさ」とは何かを表現するための「ガラスの浮島」という提案である。



□レファレンス



fig.01_水面の花びら

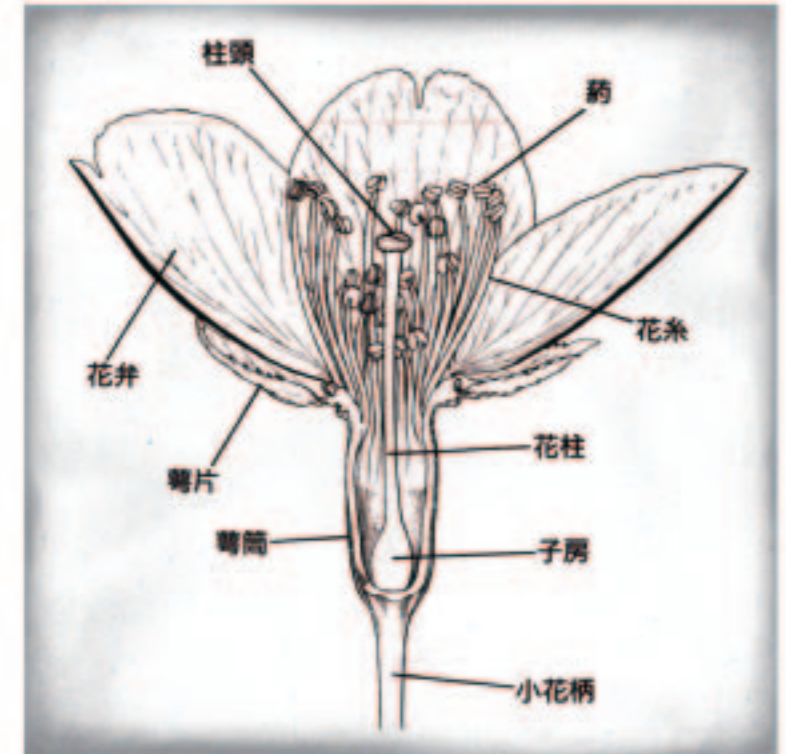


fig.02_花弁の断面



fig.03_カタラン・ヴォールト

